

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 建築・インテリア系教育課程編成委員会	
開 催 日 時	平成 26 年 1 月 23 日 (木) 15 時 30 分～17 時 30 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、3 階会議室	
参 加 者	外部委員：6 名	内部委員・学内関係者：6 名
	<p><外部委員：6 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>大塚 雄二 (社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所)</p> <p>霜野 隆 (インテリアプランナー協会会長 株式会社レスト マムハウス事業部部長)</p> <p>樋口 修 (東京商工会議所中野支部/株式会社ヒグチ設計)</p> <p>北川 辰雄 (清水建設株式会社)</p> <p>中山 聡 (前田建設工業株式会社)</p> <p>宮脇 伸歩 (株式会社 LIXIL)</p> <p><内部委員：6 名></p> <p>三上 孝明 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長、第一部のみ)</p> <p>高瀬 恵悟 (同 教務部長、第一部司会、第一部のみ)</p> <p>甲田 竜雄 (同 建築監督科 科長兼カリキュラムリーダー、記録)</p> <p>白井 雅哲 (同 インテリア科 科長兼カリキュラムリーダー、議長)</p> <p>今野 祐二 (同 建築科 科長兼カリキュラムリーダー)</p> <p>鈴木 昇 (同 建築監督科 科長兼カリキュラムリーダー、記録)</p>	
会 議 録	<p><第一部 全体会></p> <p>0. 開会の辞・スケジュール案内 (司会)</p> <p>1. 校長挨拶 (三上)</p> <p>2. Web デザイナー科仕事場カリキュラム発表 (宮川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科長挨拶 (宮川) ・東中野駅前商店街会会長挨拶 (東田) ・学生による発表「ムーンロード商店街 ホームページ制作について」 ・発表に対する意見 <ul style="list-style-type: none"> - 制作だけでなく、運用面として今後のメンテナンスについても意識した活動を継続してほしい。 - 中野区の商店会ホームページとのリンクをお願いします。 - web 媒体の運用に留まらず、地域への密着度向上のためにも紙媒体との相互関係を持った発展性を検討して今後も継続した活動を行ってほしい。 <p><第二部 系別分科会></p> <p>1. 議長挨拶 (白井)</p> <p>2. 前回議事録確認 及び 回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築監督科の点を線にする授業に対して、具体的に工程表を題材とした授業を実施すると良いという意見に対して、建築監督科 3 年生 4 期に実施する「建築施工計画実践 3」及び同 3 年生 5 期に実施する「建築施工計画実践 4」の授業内で工程表を題材とした授業を実施すると回答。今年度は 5 期の授業内で実施。 ・耐震診断、補強工事の需要が増加していくと予想されるため、リフォーム系の授業を増やしていくと良いという意見について、インテリア科では 1 年生 5 期の建築構造 1 の授業と 2 年 1 期の建築構造 2 の授業の中で実施すると回答。同様に建築科では 2 年 2 期の建築一般構造 3 や 2 年 4 期の建築一般構造 4 の授業内で取り組むと回答。 ・省エネなどに関する環境系の内容を科目としてカリキュラムに取り入れていった方が 	

よいという意見について、文科省の中核人材育成カリキュラム開発事業の中でも環境に対する取り組みのカリキュラムを作成しているが、今年度は今野が、全科を対象に「環境リテラシ」という授業を実施していると回答。

・人と接するスキルを育成するような時間を持つ必要があるという意見について、リビングスタイリストという、インテリア関連商品を扱う小売業界において、顧客のニーズに対応するために、幅広い知識と接客スキルを認定する資格がある。それらのこともふまえて、2年1期に実施している建築実務2の授業内容に取り入れたいと回答。

・「学園理念にある“夢”というワードに対する取り組み」、「地区計画などへの参加」、「興味をもてる範囲の学習」といった意見に対する回答として、建築科・インテリア科の設計実習への取り組みを、学生課題成果物を使用して、課題取り組みについて理解を求めた。

結果として、学校課題についての理解及び評価を頂けた。しかし、今後の社会的背景の移り変わりを考えると、医療福祉系の課題が必要ではないかと意見を頂いた。

・その他、活動に対する評価していただいた意見については、今後もブラッシュアップしながら、質保証を継続していけるよう尽力をすると回答。

3. 意見交換

・インテリアプランナー資格は受験年齢の制限があるため大半の専門学生は受験できないが、今後制限緩和が検討されるので、再度対応を考えてほしい。

・社会性や地域性などを踏まえた企画は仕事に就いてから、初め10年間の仕事にとっても役に立つので、そうした社会的背景を考えながら課題に取り組むということを学校の授業中で行うことはとても重要である。

・インテリア科と建築科の境界がなくなっていると感じる。学科での分野分けを学科間で再度見直して欲しい。意識をしているのは感じるが、学生にとっては、インテリア科に入ったのか、建築科に入ったのかわからなくなってしまう状況は避けるべきである。

・webデザイナー科の発表にあったような、ヒアリングでストレスを感じて、そのストレスをどう乗り越えたのかが、実際の仕事にとっても役立つと思う。そういったマインドを育成する部分がとても重要と考えるので、今後検討していただきたい。

・現在生産メーカーの現場では、顧客一人一人を具体的に想定した上で、それに合う製品の提案という指向になっている。学生の課題や教育にもそのような具体性を持った課題に取り組むべきである。

・2025年超高齢化が来るため、これから医療福祉系の建築需要は高まることが確実とあっていいほど予想される。そのため医療福祉の課題はこれから必要。それに伴って、医療福祉ボランティアへの参加を勧めたい。実体験をもとに建築を計画し、設計・建設することができる人材育成を目指して欲しい。

・建築士試験は手描き製図となるので、パソコンばかり行っていないで、手描きの授業もできるだけ入れる必要がある。

4. 次回日程について（議長）

・平成26年7月18日（金） 15時30分～17時30分

・平成25年度末に開催される設計実習課題発表会の開催告知 及び 委員へ参加を呼び掛けた。

5. 閉式の辞（議長）

以上